

佐渡米通信

こめる

2023年 12月号

発行日:2023年12月

編集人:佐渡農業協同組合 総務部総務課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snov.ocn.ne.jp

販促イベントで佐渡米PR

JA佐渡管内の米検査が終わり10月末から本格的な販売活動が始まりました。愛知県の百貨店でのイベントを皮切りに首都圏の朱鷺と暮らす郷推奨店3店舗でPR活動を行いました。いずれのイベントも盛況で多くのお客様とお話させて頂きました。佐渡米とトキとの関連については認知度を上げるため広報・PR活動ともに、より力を入れていく課題もみえてきました。新型コロナウイルスが5類に移行し販売活動を広げるため、今後は商談会や新規取り扱い米穀店への営業等を計画しております。



名古屋食糧様と一緒に名古屋三越栄店でお客様へ販促PRをしている様子

JA佐渡では、令和5年産の米の品質についての説明とJA佐渡が推奨する米の研ぎ方と炊き方を紹介するパンフレットを作成します。佐渡米を取り扱ってくださる方々に自信をもって販売していただけるよう情報発信に努めます。

JA佐渡では、令和5年産の米の品質についての説明とJA佐渡が推奨する米の研ぎ方と炊き方を紹介するパンフレットを作成します。佐渡米を取り扱ってくださる方々に自信をもって販売していただけるよう情報発信に努めます。

佐渡の米農家さんにインタビュー

農事組合法人琴浦の理事の石塚雅実さんにインタビューさせていただきました。同法人は旧小木町の琴浦集落にあり、令和4年12月に設立されました。小木半島は大きな河川が無く畑作が中心の地域でした。しかし、白米への憧れから水源を確保するために地域の有志で昭和11年に掘削を開始しました。第2次世界大戦で一時中断はありましたが、昭和28年に水脈を掘り当てることが出来ました。この貴重な水源を皆で大切に使うため全国的にも珍しい共有田・共有経営をしてきました。集落には横井戸の記念碑が建てられて今現在も貴重な水源として田んぼに供給されているそうです。若い担い手たちもその恩恵を大切にすため、昼夜問わず2時間毎の時間割を作成し、集落皆で水管理を行っています。石塚さんは掘削当時から関わってきたかの様に熱くお話をされるので、当時の人たちの想いまで伝わってきました。

JA佐渡では、持続可能な営農体制づくりに取り組んでいます。先人たちが築いた財産をその地域・人の特徴にあった形で維持していけるよう様々な視点を考慮した提案を行い地域と一体となって話し合いを進めて参ります。



共同機械利用場にもなっている農事組合事務所前で撮影に臨んでくれる石塚さん



「横井戸の水が出た!」琴浦開田50周年記念誌



琴浦開田記念碑(右)と横井戸の掘削経緯を伝えていくための顕彰碑(左)

横井戸掘削当時の写真をご覧いただけます。



お米農家さんから教わるお米作り体験学習

JA佐渡では児童達にお米作り体験やお米に関わる人々との交流を通してお米の魅力を伝える活動に取り組んでいます。



生産者さんが講師役として児童達にお米作りを説明



生産者さんの学校田用の田んぼで田植え



種まきから収穫まで体験

温湯消毒 春耕耘 苗づくり 田植え 水管理 中干し 穂肥 稲刈り 秋耕耘 ふゆみずたんぼ

